

3-2 水利用と水環境からみた課題

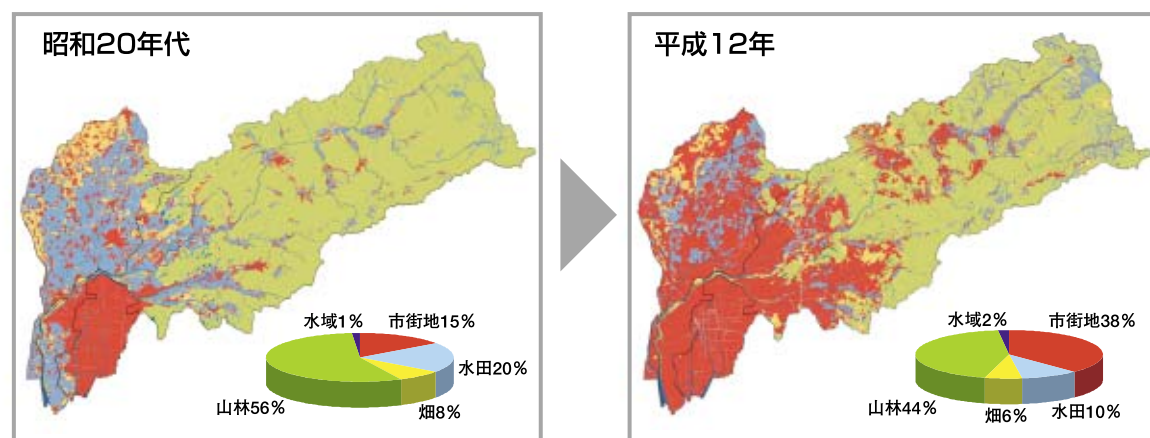
(1) 地域や社会の状況を踏まえた水利用を行う

① 土地利用の現状に合わせた適正な水利用を行うこと

土岐川庄内川は、流域面積が小さいために平常時の水量がそれほど多くなく、安定した取水量が望めないことや、流域の都市化により水質が悪化したことなどから、量としてはたくさんの水利用はされてきませんでした。

そのような状況の中、主に農業用水として使用されてきましたが、市街化が進み農地が減少したことにより取水量が減少してきているため、これからの水の使い方について整理していく必要があります。

土地利用の変化



② 環境に配慮した弾力的な水利用を行うこと

農業用水としての利用が少なくなっている状況の中で、農業用水路に年間を通して水を流すことによって町中の水環境を保全するニーズが高まっています。また、「堀川1000人調査隊」で話題となっている堀川では、水環境の改善などの新たなニーズが拡大しています。

これらのニーズを踏まえ、町中にある水環境がヒートアイランド現象を緩和する効果など、水環境の改善が果たす役割についても視野に入れながら、環境に配慮した弾力的な水利用を行っていく必要があります。



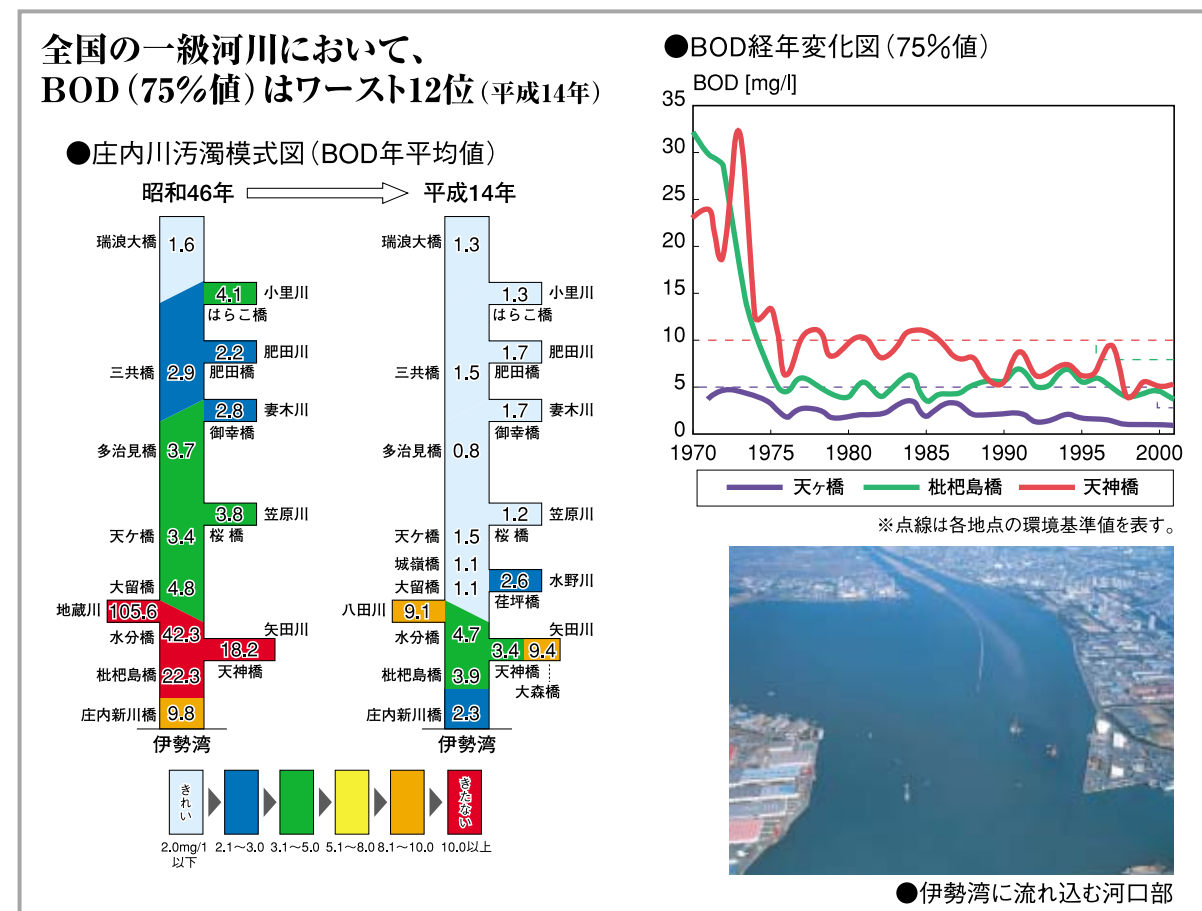
●堀川1000人調査隊

(2) 流域の自治体と一体となって水環境を改善する

① 親水意識の高まりに見合った規制や監視を行うこと

土岐川庄内川では、流域の都市化により昭和30年代後半から急速に水質が悪化しました。昭和46年の水質汚濁防止法の施行により様々な対策が行われ、水質はずいぶん改善されてきましたが、BOD(75%値)は全国の一級河川の中でワースト12位(平成14年)です。

上流から伊勢湾を含めた水環境も視野にいれながら、水質に影響を及ぼす産業排水、家庭からの雑排水、農業系排水の汚濁について、窒素・リンなどを含めて、規制や監視を行う必要があります。また、水質事故対策を強化するなど、流域の自治体と一体となって水質の改善に取り組んでいくことも必要です。



② 下水道などの整備を推進すること

流域市町では、下水道などの整備が順次進められています。

本川や支川の水環境をより良くしていくには、さらに下水道整備の推進を図ると共に、完成している下水道の高度処理化や合流式下水道の改善のほか、合併浄化槽などの整備を総合的に進めていく必要があります。

合流式下水道のイメージ図

合流式下水道
雨の日には、増水して下水処理場で処理ができない量になると、家庭からの生活排水と雨水と一緒に未処理のまま川に流れてしまいます。



出典:中部地方整備局建設部HP

主な流域市町村の下水道普及率(名古屋市、春日井市、多治見市)

